

第3回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I 概要

日 時：2021年5月14日（金）13：30～15：30

場 所：菊池市役所 本庁3階305大会議室 オンライン会議

出 席：委員 上野委員、古津委員、岩根（浩）委員、合志委員、泉委員、芹川委員、
田中委員、坂田委員、工藤委員、加来委員、松永委員、最上委員、緒方委員、
佐藤委員、増住委員、山口委員、北村委員、福田委員、中里委員

※欠席 岩根（孝）委員、中村委員

菊池市政策企画部 後藤部長、中川課長、上野課長補佐、井島係長、高木参事
地方経済総合研究所 宮野、内藤（文責）

※以下敬称略

II 会次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）市の将来像について

（2）ありたい姿の審議について

（3）基本構想（たたき台）について

（4）その他

4 閉会

Ⅲ 議事詳細

発言者	内 容
事務局	1 開会 異動に伴う委員の変更あり。菊池市商工会は松野委員から泉委員へ、熊本県北広域本部は飯塚委員から増住委員へ変更。
会長	2 会長挨拶 前回の策定審議会では、グループワークで多数の委員の意見を聞くことができた。今回は、新型コロナウイルスの感染状況が悪化したことで Zoom を利用して自宅や市役所会議室などをつないでいる。現在、大学の講義も Web を活用しているが、雑談できないという部分で意思疎通が難しいと感じる。策定審議会場で重要なことは、内容を決定することよりも、委員皆様の市民としての意見を市に伝え、また市は委員の意見から気付きを得ることである。委員の意見を計画に反映してもらいたい。本日は、発言が難しい面もあると思うが、Zoom の機能をうまく活用してもらいたい。本日は協議事項が多いため、発言は積極的にお願いしたい。
事務局	3 議事（１）市の将来像について 市の将来像はまちづくりの総合的な目標でありビジョンを描くものである。総合計画基本構想をはじめとし、各種計画に至るまでの拠り所となり、総合計画の根源にあたる。検討にあたり、四つの観点に着目する必要がある。 1 点目は市内外への発信を配慮した将来像となっているか。将来像は市民や庁内といった市内はもとより、市外に対しても効果的に伝えていくべきもので、双方からのわかりやすさに配慮する必要がある。 2 点目はまちづくりの可能性と夢を育む将来像となっているか。地域を取り巻く社会情勢や、自治体の財政状況などまちづくりに対して課題は山積している。このような中、市民が共感でき、共に希望をもって歩んでいけるような共通目標とすることが求められる。 3 点目は分かりやすさとインパクトのある将来像となっているか。将来像に対する共通理解を得ること、心に訴えかけるものでなくてはならない。計画の中で、最も分かりやすく、かつインパクトを持たせることが必要である。端的かつ明瞭に表現することが望まれる。 4 点目は地域性、独自性豊かな将来像となっているか。ほかの地域にない言葉を選び、市民に対して親しみと誇りをもたらすものである必要がある。 以上の４点を考慮し、前回までに示した市民アンケート等の結果と、

	第1次、第2次総合計画の将来像、SDGs 未来都市の2030年のあるべき姿を参考に事務局案を提示する。将来像（案）は、「人と自然が調和し 希望と活力に満ちた 『癒しの里』 きくち」。人と自然は本市のまちづくりにとって一番大切なものである。これらを守り、磨き続けることが将来にわたって夢や希望があふれるまちづくりにつながる。社会的・経済的活気に満ちたまちにしたいという思いをこめている。 アンケート等の市民意見を分析、抽出されたキーワードが「自然」、「健康」、「幸せ」。これらは市で最も大切にすべきもの。人に関わる重要な要素である「健康」と「幸せ」が、これまで受け継がれてきた豊かな「自然」と調和し、人と地域がつながり、つどうことで『癒しの里』が実現できる。 また現在、コロナ禍で大きな転換期を迎えており、ポストコロナの視点は外すことができない。SDGs、Society5.0、新しい生活様式をポストコロナの共通視点とした上で、次の4つの視点からまちづくりを考えることが必要である。 視点①は生涯穏やかにいきいきと暮らせるまちづくり。誰一人取り残さない、生涯にわたって心豊かに暮らせるまちづくりを目指す。そうすることで住民満足度が高まり、市の持続可能性が高まる。 視点②は選ばれるまちづくり。ほかの自治体にはない、菊池溪谷をはじめとした自然という地域資源を活用し、地方分散の受け皿となるようなまちづくりを目指す。 視点③は循環型社会の実現。環境をはじめ、人・産業・経済における循環型社会の確立に向けた取り組みの促進が必要である。 視点④はデジタル化の推進により、誰もが恩恵を受けられる快適な市民生活の実現、市民がデジタル化の恩恵を受けられるような社会を実現する。新しい生活様式に基づき、行政のデジタル化を推進する。 以上の視点を持ちつつ、住民満足度の向上と、経済の活性化を調和・循環させることで暮らしやすいまち、訪れたいまちづくりを行い、将来像を市民と行政が一丸となって実現していく。
会長	将来像については、SDGs と Society5.0、新しい生活様式の共通視点を政策に反映させた上で、四つの視点を取り入れることで菊池市がより良くなるということだと考える。
【質問・意見】	
委員	ポストコロナ社会における視点で、自然とデジタル化の融合について違和感がある。数年前、海外の都市でスマートシティ化の動きがあった際、情報開示がプライバシーの侵害にあたるという意見から計画が

	取りやめになった事例がある。サイバーセキュリティが十分に機能するか危惧している。
会長	デジタル化によるプライバシーの侵害を危惧していることと、自然とデジタル化の融合という表現に違和感を覚えるということでしょうか。
委員	それに加え、電磁波対策がなされていないことも問題と考えている。
事務局	豊かな自然を代表とする地域資源は、菊池市にとって一番重要なものである。豊かな地域資源とデジタル化の融合により、地域活性化につなげていくことを考えている。
会長	デジタル化は、非対面でのコミュニケーションを可能とし、遠隔医療やドローンの有効活用といった良い側面もあるが、個人情報漏えいする懸念もある。良い面の利用を促進し、実際に市民が経験していく必要がある。例えば、公共交通も高齢者がスマホを活用できるようになることで、交通機関の接続が容易となり、シームレスな移動ができる可能性もある。メリットとデメリットの両方を考慮する必要がある。
委員	プライバシー問題の解決は必要である。しかし、日本のデジタル化は世界から大幅に遅れているため、菊池が率先してデジタル化を進めてもらいたい。
会長	今全国で問題となっているワクチン接種の予約など、新たな技術で解決可能な事象は多い。弱者に配慮した考え方を社会で共有することが重要である。誰もが分け隔てなく使いこなせることが大事であるため、そのような哲学や理念があると良い。
委員	幸福を感じるという観点では、取り残され感をなくすことが重要だと考える。全国に菊池の情報発信ができることはデジタル化の利点である。コロナ収束後の未来を見据え、今の菊池の自然や食べ物を発信することが必要であり、それが地域活性化につながる。高齢者のコロナワクチン接種の予約に関しては、方法を教えてくれる人がいる、代行する人がいるなどの助け合いがあると、予約が困難と感じる人も取り残され感を感じない。子どもたちは学校が休校になる可能性があることに不安を感じており、世代によって様々な不安がある。人々の不安に対し、手を差し伸べられるような社会であって欲しい。
会長	人は一定水準の生活を送ることができない時や、自分が他者と比較して平等でないと感じた時に、幸せを感じられなくなる。それらが起きないための配慮が必要である。個人が幸福を感じるために、社会から取り残される人を出さないようにすることも重要である。学校へなじめない子どもや、家庭に問題を持つ子どもは、周りから救いの手を差し伸

	べられることで幸せを感じることがある。助け合いは重要な価値観であり、菊池は文武両道、礼儀礼節を大事にするといった教育をしていく中で、人に優しくあるという価値観が育まれるのかもしれない。市にはそのような伝統的な価値観も、政策の中に取り入れることを検討してもらいたい。
委員	子どもたちには一人一台タブレットが支給されている。ネット環境についての調査も教育委員会が行っている。誰一人取り残さないという意味では、高齢者へのネット環境に関するアンケート調査の実施、もしくは検討しているかを市に確認したい。 また、このような市の政策に関する Zoom 会議を別途開催し、ネット環境がない方でも、ネット環境を持つ他の参加者と同時に参加できるような仕組みがあるといい。 自然とデジタル化の融合では、菊池の自然に興味がある人にネットで発信することができると考える。以前、市が熊本地震からの復興の動画を作成していてとても良かった。そういった情報発信が、菊池のおいしい水や農産物の販売にもつながる。学校では子どもたちによる、市の素晴らしい情報の発表も数多くなされている。そのような情報を集め、様々な形で発信できる機会があるといいと思う。そうすることで、交流も増え、活性化につながると思う。
事務局	高齢者に対するネット環境調査について、部署が違うため把握していないが、おそらく市では行っていないと思われる。Zoom を活用した意見交換の場づくりは今後検討していく。情報発信については広報で取り組みを行っており、それを強化して取り組んでいく。
事務局	(2) ありたい姿の審議について 前回の策定審議会で実施したワークショップの意見をとりまとめ、分野ごとにまちのありたい姿について事務局案を作成した。ありたいまちの姿は市民の願いや思いを表現する一番重要なものである。4年後の将来を見据えた明確なビジョンが必要であり、総合計画の中で重要な部分となる。事務局案に対して審議をお願いし、本日、ありたいまちの姿を分野ごとに決定して頂きたい。
会長	まず、グループワークのとりまとめ結果について、市職員として共感した点を紹介してほしい。
事務局	自然環境の分野では、食材を無駄にしないフードバンクや、水が重要という意見が出たことから、地域資源の循環が重要と感じた。環境にやさしく持続可能なまちづくりについて共感を覚えた。
事務局	市の情報発信の方法でケーブルテレビの活用の話があった。広報紙

	やインターネットの利活用はあるが、地域の良さをリアルに感じるという視点で共感を持った。高齢者にも身近なツールになり得ると感じた。また、地域コミュニティが希薄化しているという意見に対し、社会とのつながりを維持していくことが重要と感じた。
会長	単に自然を守るというより循環や共生の意識が根付くことが重要と感じる。意識を醸成していく必要がある。
【質問・意見】	
委員	各ありたいまちの姿の内容については様々意見があると思うが、総合計画における共通の視点として SDGs の推進がある。ありたいまちの姿は、各項目が SDGs の 17 の目標に該当していると感じる。今後 SDGs とのつながりを意識しつつ、計画と整合させると良いと感じる。
事務局	ありたいまちの姿は SDGs との親和性は高く、目標のいずれかには該当する。今後つながりを意識しながら検討していく。
会長	SDGs は世界全体の目標であることに対し、総合計画は菊池市における当面の課題への解決策を、市民意見を交えながら策定するものである。SDGs とのつながりは意識する必要がある。
委員	暮らしの基盤の分野で、幅広い世代間の交流があげられているが、コミュニティの希薄化について話をしたい。私は普段、不登校児を持つ親を対象とした茶話会を実施していて感じるのは、話したいことがあっても話す場所がない、話す相手がいないなど、子育て世代も孤立していることである。私は、他者が開催していた会に参加したことをきっかけに自ら話す場所をつくるようになった。人材育成やリーダー育成、特に動くリーダーを育成することが必要である。人材育成にはリーダー育成の視点も入れてもらいたい。
会長	市民による草の根での活動は重要ある。以前は町内会の集まりなど関係を強めるものがあったが、最近は隣近所との交流がなく、孤立している人をどう助けるかを考える必要がある。この項目が暮らしの基盤のカテゴリーになっているのは地域防災の視点が入っているからだと思えるが、問題解決のためには、人とのつながりを大切にすることと社会基盤整備の両面が必要である。ありたいまちの姿は、単に市民サービスの提供という市からの視点だけでなく、市民と一緒に作り上げていくような表現にしていく必要がある。例えば、支所単位で市民の自治を促進する、協働で楽しい場づくりをする仕組みを作っても良いと思う。昔から総合計画をみていると自治を育てるという視点が希薄と感じることが多い。

委員	学校環境の部分で思うことがある。昨年4月は緊急事態宣言発令により学校が休校になり、まち全体の活気がなくなった。地域の活力維持のため、学校存続を訴える必要性を感じた。学生には市内の高校に入学してもらい、菊池の良さを大学や社会でPRしてもらおうことが大事である。そのために、高校生活の中で、実際に市内名所を訪問してもらおうことで、それが将来の観光誘客につながる。
会長	高校教育のあり方も色々な場で検討され、市と高校の連携も機会は増えていると思われる。高校生の力を信頼し、生徒自らが社会課題解決に向けた活動を実施する機会を与えてもいいと思う。
委員	子育てと健康福祉の分野では「安心して子育てできるまち」、暮らしの基盤の分野で「誰もが地域で交流できるまち」や「みんなで作る安心安全なまち」とある。私達の世代では2世代、3世代同居が当たり前だったし、集落内のつながりも強かった。地域のネットワークの中で子どもたちを守り、育ててきたが、最近では、各家庭や地域内での付き合いを避ける傾向が強まり、世帯数、独居老人は増加している。プライバシーの問題もあるので、以前のような社会に戻ることは難しいと思われるが、プライバシー保護と子どもたちの見守りのバランスを考えていく必要がある。
会長	市民の心の問題にも関わると思う。地域によって、バランスをとるための方法は変わるため、地域の特徴に応じて対応していくといいと思われる。
委員	「誰もが地域で交流できるまち」、「人を大切にする思いやりのまち」というありたいまちの姿を実現するために、市内に居住する外国人も含めて考えてほしい。菊池市は外国人が増加しており、今後も外国人の力は必要不可欠である。庁舎に外国人の専用相談窓口を作るといったことを検討するなど、外国人の目線でも住みやすいまちにしてほしい。
会長	菊池市では、姉妹交流都市や観光誘客の面で国際化が進んでいた。外国人との共生は課題である。外国人が移民・労働者のコミュニティで固まっているというものもあるが、市民の中には、同じ市民として見ることができないという意識が根底にあるのかもしれない。外国人との共生についても総合計画に明示する必要がある。
事務局	様々な意見があったが、頂いた意見を考慮しながら、改めて精査する。なお、リーダー育成の観点は基本計画の施策に入れ込む予定である。
会長	委員の皆様の意見が反映されるようありたい姿については整理をし

	てほしい。
委員	今は家庭環境が変化しており、単身家庭や母子家庭、一人親家庭も増えている中で市民間のつながりが希薄化している。SDGs の誰一人取り残さないという考え方が重要であり、行政が積極的に市民に関わり誰一人取り残さないというような理念があるといいと思う。
会長	誰一人取り残さないという考え方は、外国人などを社会の一員として認めるという概念も必要である。日本ではアメリカ式の資本主義の考え方のもと、大企業中心に自由競争や規制緩和を 30 年近く行っている。昔は社会党が、規制を入れてでも平等・公平な社会を作ろうという理念を持った政策を打ち出していた。それがアメリカ式の考え方になり、日本では様々な分野で価値観が変わっている。一方で、ヨーロッパは移民が多く、信仰する宗教も違う多くの民族の集合体であるため、日本より課題が大きく、課題解決のために真剣に取り組んでいる。茶話会の開催による相談の場の創出の話が先ほどあったが、政治や世間についての話を気軽にできる場があると地域は健全になる。しかし、常に同じコミュニティで集まると価値観が固定化されてしまう傾向がある。 菊池の地域性を活かして、一人ひとりが心地良い場所にしていき、それを政策へ組み込むことができれば、理想である。
事務局	(3) 基本構想（たたき台）について 資料 7。送付した資料の修正あり。P5 の将来像は検討段階のもの。「人と自然が調和し 希望と活力に満ちた 『癒しの里』 きくち」へ変更。P9 の計画基本方針は順番を入れ替え。P17 は番号相違 (③→④に変更)。
【質問・意見】	
委員	P6 の 4 - (1) - ①の表現について。5 行目の少子化の進展に係る文章は表現の見直しをお願いしたい。
委員	総合計画は市民にも示すものであり、表現はわかりやすくすべきである。例えば ICT や PDCA など平易な言葉に変更する必要があるのではないか。
事務局	総合計画はわかりにくい用語については注釈を入れる。基本的に市民向けや庁内向けの計画となるので表現を分かりやすくする必要があるため、わかりにくい表現があれば見直す。
会長	菊池市として取り組む最上位計画であり、専門用語が出るのは致し方ないが、わかりにくい言葉は注釈をつける、外国語の略語は使わない等の検討をしてもらいたい。

委員	市民アンケートで「まちとしての特色を感じないので対策が必要」という回答が見られた。バランスよく政策を実行することも大事だが、他自治体にはない特色を示すと市民が目指す方向が明確になると思われる。例えば、デジタル化についての政策は現状、Wi-Fiを全家庭に設置するなどハード面の整備がメインとなっている。一方で、ソフト面の充実を行うべきだと考える。市民からは、インターネットやメール、SNSの活用方法を学びたいが学ぶ機会がないという声が上がっている。まちとしてデジタルに特化するなど、菊池の色を出す必要がある。
会長	委員の皆様には今後も素案を見た上で、表現や図へのアドバイスをしてもらいたい。
委員	基本構想の構成や内容について特段意見はない。審議の本旨に外れるが、総合計画策定にあたって実施されたアンケートについて分析をお願いしたいことがある。市のイメージについての設問だが、高校生を対象としたアンケートでは「観光資源が豊かなまち」が市民向けアンケートと比較し高い割合率となっており、そのギャップが意外だと感じた。観光資源に魅力を感じられるようにするための分析を深めることが、観光振興の施策につながるのではないか。
会長	図には図表番号とタイトルをつける、文章中に図表番号を挿入するなど見やすくなる工夫をしてもらいたい。また人口ビジョンのグラフは不要なデータもあると思われるので、デザイン面でも配慮をもらいたい。その他、委員の方々は、気づいた点や気になる点があれば、事務局へ連絡をお願いしたい。
事務局	(4) その他 意見等あれば、策定審議会前に送付した意見書に記入いただき市へ持参、もしくはメールで返信いただきたい。次回の日程は7月12日(月)13:30開催予定。
事務局	4. 閉会 第4回策定審議会も今回同様、感染状況を鑑み、オンラインでの開催を含め検討する。